



Title	きずな金融のすすめ
Author(s)	濱田, 康行
Citation	しんくみ, 56(9), 2-3
Issue Date	2009-09
Doc URL	http://hdl.handle.net/2115/39308
Type	column (author version)
Note	巻頭言
File Information	Hamada2009_shinkumi.pdf



[Instructions for use](#)

きずな金融のすすめ

濱田 康行

〈いちば〉

市場は“いちば”とも読みます。小さいものでは各地の朝市、大きいものでは築地ですが、共通しているのは人々が集まり集団的な取引で価格が決められていることです。規模の大小にかかわらずどこか人間臭く、そこには人々の絆の存在が感じられます。

金融市場となるとだいぶ様子が違うのですが、“いちば”のイメージを保っているのは地域金融市場です。そこには地元の企業と金融機関の間、というより各機関の担当者同士の絆があります。支店長の転勤に一番抵抗があるのはこの世界です。人事政策上、転勤は様々な意味で避けられませんが、転勤してもらいたくない支店長と思われるなら、それは金融マンの誇りでしょう。

国際金融市場は対極にあります。取引のほとんどはスクリーン上ですし、またニックネームを使っている場合がほとんどです。ディーラー達が夕方ロンドンのパブでビールを飲む。かなりハードで神経を使う仕事ですから、ストレス発散は大切です。彼らはいきつけのパブに集まるのですが、日中の取引の相手が誰だったかはわからない。君は〇〇社か、ところで今日は相場が荒れたね、などと言ってビールを飲むというわけです。

国際金融市場ではスクリーン上に示された投・融資の条件がすべてで、かつ判断は素早くこなされる必要があります。もちろん、一度、実行したら取り消せません。ディーラー経験者によると、ダン（done・取引を実行すること）の意思表示をする時は心臓が高鳴ると言います。しかし、ドキドキする相手の姿は見えない。しかも、この世界はゼロサムゲーム。露骨に言えば弾の打ち合い。そこにいくと時代遅れのように見えますがローカル市場には前向きな興奮と共同の利益がある。協同組織金融機関の融資担当者がようやく決裁を得て中小企業の社長に“決まりました”と報告する。その時の社長の笑顔があるのです。

〈強欲〉

金融世界は、言ってみればタテに伸びてしまい、一方の極に人間関係を残すややウェットな世界、他方の極に IT 技術が極限に展開したドライな世界があるのです。問題なのはドライな世界がウェットな世界を時代遅れとやや上目視線でみてきたことです。

しかしそれもリーマンショック・世界金融危機以前のことで、いまではグローバル金融マンの視線はガクリと下を向いてしまいました。

危機の原因についてはいろいろありそうですが面白いのは強欲説。人の懐を羨んでは品格を疑われますが、国際金融分野で人々の収入はスゴかった。かつての財務長官のルービン氏はゴールドマンサックスの会長でしたが彼の退職金は 30 億円。同じような経歴の持ち主であるポールソン氏の年収は 25 億円。さらに事実上破綻し国有化された AIG の元取締役が数億円ずつ退職金を受け取ったとか、やはり国有化された GM の会長がデトロイトから専用ジェット機でワシントンに乗り込んだとか、極めつけは、公正であるべきナスダック

ク証券取引所の社長が詐欺罪で有罪、なんと懲役 150 年の刑。こういう派手な話を聞かされると、強欲説もホントかなという気がしてしまいます。

しかし、強欲と普通の欲望の境目ははっきりしないし、後者なら誰にでもあるわけです。だから強欲な世界をつくらないためには欲望そのものをコントロールしなければなりません。資本主義の欲望は利益への欲望ですから、利潤原理を抑制することになります。

〈抑止力〉

おそらく方法はふたつある。原理は理念だから対抗する理念をぶつける。第二は理念でなく実践で、つまり個々の競争局面で、利潤原理でない主体が闘うことです。第二の方法は一見難しそうですが、協同組織金融マンが日々実践していることです。ローカルな金融市場ではひとつの顧客企業をめぐる預金についても貸出についてもメガバンクや有力地方銀行と競争しています。この競争に負けない事が肝心。私はこれをマイクロレベルでの抑止力と呼んでいます。何に対抗しての抑止かといえば、資本主義の暴走へのです。理念対理念も有効な場合もありますが、そういうのは所詮、“観念的”、悪く言えば口先なのです。資本主義は実践です。あなたの地域で競争に負けないようにすることがコミュニティの絆を守り社会を分裂状況にしない第一歩です。もちろん、それは易しいことではありません。競争相手は規模のメリットという武器を持っていますが、それは小回りが利かないということでもあるのです。